

「とりなし主なるイエスさま」 (ヨハネによる福音書17：11c～19)

教会の暦は昇天日を経て復活節最後の主日を迎えました。この主日は、とりなし主なる主イエスに立ち返ります。主イエスのご受難の後、絶望のなかにいた弟子たちの真中にあらわれてくださいました。けれども主イエスは天に戻られ、またしても目に見えなくなってしまいます。弟子たちは不安であったろうと想像しますが、聖書には喜んで主イエスのことを証ししながら聖霊降臨のときを待つ弟子たちの様子が記されています。なぜ彼らは不安に支配されなかったのでしょうか。それは、主イエスのご自分の昇天後も弟子たちのことを守ってくださるように神にとりなしをくださったからです。今日の福音はその主イエスによるとりなしの祈りです、主イエスのご自分が昇天することを宣言しつつ、弟子たちのためにこう祈ります。

「聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。」弟子たちはこれから主イエスの働きを受け継ぎ、担います。その弟子たちをどうか守ってください、と主イエスはとりなしの祈りをささげたのです。そしてさらに主イエスはこう祈ります。

「彼らのために、わたしは自分自身をささげます。」

このように主イエスのご自分の命を賭して、神にとりなしてくださったからこそ、弟子たちは神に守られます。主イエスのとりなしによって降される神の助けがあるから、弟子たちは喜んで主イエスの働きを受け継ぎ、担っていくことができるのです。

主イエスの働きを受け継ぐ。それは、主イエスと同じように神から離れさせようとするこの世のあらゆる力からの挑戦を受ける道であり、孤独の道です。主イエスはその孤独に最後まで耐えられましたが、わたしたちはその孤独に耐えることはできないでしょう。しかし、主イエスはわたしたちを孤独にはしておきません。先主日の福音で、主イエスはわたしたちのことを「友」と呼んでくださったことを忘れてはなりません。どのようなときも伴ってくださる友なる主イエスは、いつもわたしたちと神とをとりなしてくださいます。そして、神との交わりにわたしたちをいつも迎えてくださいます。だから、わたしたちの主イエスに従う歩みは孤独ではありえません。

ご自分の命をささげて神に従った主イエスの祈りを、神は必ず聴いてくださいます。そのことを証ししているのが、聖霊降臨の出来事に他なりません。主イエスのとりなしの祈りは、聖霊が降されることで成就します。いよいよ来週、わたしたちはそのことを祝う聖霊降臨日を迎えます。